

本当の代用乳への期待と効果

ラクトセーフという豚用代用乳がありますが、この度デンカピッグ・ベビーウィーンという新しい代用乳が販売されることになりました。その名の通りデンカピット社の製品です。これはちょうど人工乳のミルクのような高栄養飼料で、かた練状にして与えるものです(粉剤 100gに対して水 150ml を練り餌とする)。生後5日目以降であればサプリとして与えることが出来るばかりか、やや小さく先行き不安の子豚の栄養補給に活躍できるかもしれません。メーカーによれば体重3~6kgくらいで離乳せざるを得ない介護が対象の子豚の栄養補給を意図しているようです(下表参照)。例えばナーサリーデッキのような適切な環境下(温度換気などがコントロールされている分娩舎の一角に作られた保育ペン)で与える特殊飼料です。ラクトセーフよりもかなり濃厚なもので、本当の代用乳と機能するかもしれません。

ただし必ず農場のピッグフローと肥育収容場所の確実な確保のもとで行なわなければ、密飼い、日令差の大きな群の直接の接触、慢性疾病の悪化が心配されます。クリアすべき問題をピックアップして慎重に取り組むことが必要です。

＜デンカピッグ・ベビーウィーンの基本的な与え方＞	
* 離乳時3-4kgの子豚・・・	離乳後10日間
* // 4-5kgの子豚・・・	// 7日間
* // 5-6kgの子豚・・・	// 5日間
* 追加栄養として4日令以降の哺乳子豚に与える	
●好みに応じて練り餌状にしてもよいが、そのままドライで与えてもよい。	

一般的な代用乳の使用と季節の違いによる子豚と母豚のパフォーマンスへの影響

季節 処置	涼		温	
	対照区	添加区	対照区	添加区
母豚飼料摂取(kg/日)	5.8	5.8	3.7	3.7
代用乳(l/21日)	-	2.92	-	9.27
子豚出生時体重(kg)	1.39	1.44	1.57	1.44
子豚離乳時体重(kg)	6.10	6.62	5.00	6.18
子豚成長速度(g/日)	224	247	163	226
一腹総離乳時体重(kg)	58.0	62.9	46.5	59.3
母豚体重減少(kg)	7.6	9.3	15.8	10.3
母豚背脂肪減少(mm)	1.3	0.3	2.0	1.9

(Azain 他, 1996)

夏と冬で代用乳を使った子豚の成績アップと母豚の消瘦防止効果を示した試験結果がありますので参考にしてみましょう。そもそも代用乳を使用することによって母豚の消耗をある程度に抑えることが期待されますし、効果はこのためといっても過言ではありません。

- ① 冬には21日の授乳期間で代用乳が3リットルくらい必要でしたが、夏場は暑さのせいで母豚の体調が好ましくないせいもあって母乳の代わりに代用乳に依存する傾向が強くなります。そのため母豚の次回の成績の落ち込みが軽減できるはずです。
- ② 離乳時の体重を見ると夏だけでなく冬でも代用乳の効果はあることがわかります。特に夏場は子豚の増体も顕著です。代用乳のおかげという結果になっています。
- ③ 代用乳の適切な利用により、母豚の体重(背脂肪・筋肉)の減少、しいてはそのせいで起こり易い離乳後の次産次の成績低下も防止できる可能性があります。

しかし、豚本来の育種的な能力の違いや給餌されている飼料の質もあるので慎重に見なければならぬというのは言うまでもありません。一般の農場の代用乳依存度はかなりの差があります。とにかく生かしても離乳後の肥立ちが期

待できないので過保護はしない農場もあるからです。しかし種豚のように若干小さい子豚だからといってもこの時期の管理努力で立派に育成し、遺伝的資質を大いに発揮する豚もある訳ですから、改良された代用乳に期待する生産者も多いのではないのでしょうか。最後の問題は価格かもしれませんが。既にグループでは豚の血漿タンパクを飼料メーカーから入手し利用しています。そのメリットを実感しているだけにさらに追加的なコストがどうしても必要かどうかは個々の農場の判断に任される面があります。農場で必要に応じてトップドレッシング(その都度混ぜたりして利用すること)は結果的にコスト高になってしまうことが多いからです。更にコストをかける意義があるかどうかを入念なデータ分析によって検討することが求められています。この辺りは血漿タンパクを全く使用していないオランダでは未検討の課題と伺っています。



左側のような虚弱な子豚を救うには、ナーサリーデッキのような隔離ペンと丁寧なグループ分けなど手間暇が必要になります。しかし仲間に追いつくことが出来なければ離乳肥育でのお荷物になることも問題点の一つとして無視できません。

2008年12月 グローバルピッグファーム(株)